

## 委員からひとこと

合併協議会において、日夜、熱心に御議論・御検討をいただいている委員の皆さんから、委員就任にあたっての抱負や協議に臨む姿勢等について、コメントをお寄せいただきました。

(コメントをいただいたのは、1号委員及び府委員等の行政関係者を除く28名の方です。前号に引き続き、14名の方のコメントを紹介します。)

〈順不同〉



吉田繁治委員(白吉町)

少子高齢化社会の中、住民要望は一段と多様化、高度化、広域化します。それらに応えるためには、今後自治体のより効率的、適格な行政サービスが強く求められます。新市に移行し、政策形成能力、財政調達能力をさらに高め、意識改革も進める中、この合併を新しい街(地域)づくりのチャンスと捉え、合併特例法の期限内に合併協定が成立するよう懸命に努力し、その職責を果たしたいと考えます。



長野弘委員(美山町)

地方分権の時代を迎え、三位一体の改革等、国・地方ともに厳しい状況の中、今こそ行革に真剣に取り組み、自治体の力を強力にするべきである。自治体合併となると多くの課題があります。4町では対等で各町の独自政策をできるだけ継承し、素晴らしい伝統、文化を残した緩やかな合併を基本に、若者に期待が持て、将来に禍根を残さない、合併して良かったと言われる魅力ある市となるため、地域エゴにとらわれない議論を深めます。



前田三子委員(園部町)

今後、国の行政改革が進むにつれ、国と地方は対等の立場となる、住民と密着した市町村の総合的な行政能力の向上が必要であると思います。私達のような小規模自治体においては、市町村合併の推進こそが、最も有効な手段であると考えます。合併により生まれるメリットを最大限に活用し、人材の育成と、新市の組織をスリム化し、効率化を図ることが大切だと思えます。



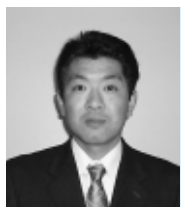
中川晃委員(八木町)

今、住民は広域合併に期待を持っているのでしょうか。不安に思っている人の方が多いように思います。広域化により住民の声が届きにくい、行政からは顔が見えにくい、益々の高齢化を思う時、将来的にも不安を感じているのが現実でしょう。合併により行政サービスが低下しないために何が 필요한のか、協議会委員として「住民福祉」を最大のテーマとして議論を深めていかなければならないと思います。



湯浅満男委員(白吉町)

合併協議会委員の責任の重大さを感じています。住民の日常生活にとっての福祉・保健衛生・環境・教育は、現在社会にあって最も大切なことです。住民福祉の向上の目的が、その問題の捉え方、手法により多様なものとなっています。しかしそれらは地域の特性に合ったものであり、又その地域で必要とされているものです。それらの調整を如何にするかが大切なことであると思っています。



佐々木智康委員(美山町)

合併に対して不安の声もある中でスタートした合併協議会に、住民の代表として参加させて頂くことに責任の重さを感じています。4町が今まで築いてきた特色を生かしながら、いかに発展をしていくか、次の世代にどのような街を残していくのか、住民の皆様と共に考え、議論をしていきたいと思っています。



谷義治委員(園部町)

昭和の合併から50年が経過する中で、社会・経済構造も大きく変化しました。自治体運営も、時代の変化に適合させることは当然の事であります。新しい時代に、新しい発想を造る構造とパワーが必要です。合併をチャンスと考え、住民の皆さんと一緒に考えながら、時代に適合する「まち」づくりを希求して行きたいと考えています。併せて将来に禍根を残さない努力をします。